

くまもと経済

表紙の人
Cover Story

堀江 隆臣 上天草市長
官民一体で天草観光の「拠点化」目指す

11 2021
月号
VOL.485

必読 熊本医療最前線
心臓病と脳卒中／がん医療／歯科



県農林水産物輸出

「ドンキ」アジア市場に県産品の新販路
終盤迎える22年卒採用就職戦線 高まる学生の“地元志向”
防災・災害対策拠点目指し新庁舎建設

特集



くになか ゆうじ／熊本市出身、1973年4月2日生まれの48歳。神戸大学大学院修了。保健学修士、理学療法士。医療系専門学校専任教員や医療機関勤務を経て(株)SENSTYLE、(株)SHIFT、(株)SIGN社長、(社福)立志福祉会理事など。2019年(株)SandK設立。趣味はドライブとツーリング

210床の住宅型有料老人ホームをオープン

重度介護者の受け入れや看取りにも対応



SandK 国中 優治 社長に聞く

▲今年8月、熊本市西区津浦町にオープンした「メディケア癒やし京町台」

210床は事業性を考慮した結果

—210床で医療従事者が8

—割ということですが、人材の確

介護保険への移行を進めていますが、医療機関としては重度の方を受け入れられる介護施設がなかなかないため療養病床を空けることができず苦慮している現状があります。重度対応が可能で在宅復帰にも貢献できる訳ですから、医療機関からも喜ばれていますね。現時点で入所者の7割が医療機関からの依頼によるものです。

—いわゆる看取りにも対応しているのですか。

国中 対応していますし、実際に看取りを希望して入所されている方もいらっしゃいます。

新型コロナウイルス感染症の影響で病院ではなかなか立ち会えませんが、当施設では看取りも行い、厳格な感染防止ルールの下でご家族の立ち合いもできるようにしています。ご家族が新型コロナウイルスを2回接種済みであることを条件としており、特殊な機械を使って全身消毒を行い、フロアから離れた専用の部屋で看取りに立ち会っていただきます。もちろん、救急車が到着するまでの一次救命のことができるスタッフもいますし、当施設で行うだけのことは最大限に行うということをルールにしています。

今年8月、熊本市西区津浦町に210床の住宅型有料老人ホーム「メディケア癒やし京町台」をオープンした(株)SandK(熊本市東区健軍1丁目)。有料老人ホームとしては規模も大きく、介護職スタッフの8割が医療従事者という特徴から注目を集めている。「国のコンパクトシティ構想に沿って介護重度者を集約して受け入れることができる施設として、『五方良し』で事業を展開したい」と話す国中優治社長に話を聞いた。

(企画開発部・宮崎慎也)

介護職スタッフの8割以上が医療従事者

—津浦町に有料老人ホーム「メディケア癒やし京町台」をオープンされましたが、まず建物の概要を教えてください。

国中 敷地面積が約3800㎡、鉄筋コンクリート造6階建て、建築面積約940㎡、延べ床面積約4700㎡です。1フロア35床ですべてのフロアの居室数の合計は210床となります。現在は1階フロア35床分をオープンしています。また、定期巡回随時対応型の訪問型サービス「グッドファイブ」においても24時間365日入居者に対応しており、また4階には脳梗塞リハビリセンターも入っています。

—施設の特徴は。

国中 まず最大の特徴としては、介護職スタッフの8割を看

保が難しいのでは。

国中 どうやってスタッフを集めるのかということはいくつか聞かれます。210床というのは居室数ありきで大きい施設を作りたいからというわけではなく、事業性を考えた結果です。

医療従事者8割を実現するには処遇を良くする必要があります。現在、介護職の平均年収は約320万円ですが、当施設ではスタッフの平均年収を450万円に設定しており、これを実現するための採算性などを考慮した結果が210床だったということです。年収面でアドバンテージを作ることによって順調に人材が集まっており、現在は約20人のスタッフの9割が医療従事者となっています。

人事考課に関しても主観的な要素を外して管理者がリアルタイムに評価をつけていきながら、1年を3期に分けて昇給の判断を行うようにしています。具体的には目標管理としてKPI(重要目標評価指標)を用いて、スタッフに対して何をすればキャリアアップが図れるかということを示しています。年収を最大で800万円に設定しており、働



▲メディケア癒やし京町台の内部。1フロア35床で6フロア合計210床となっている

看護師や理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などの医療従事者で配置しているという点です。医療従事者がおむつ交換から食事介助まですべて行うということ。これらの専門知識・技能を持つスタッフが介護を行うことで、ほかの施設では受け入れられないような人工呼吸器やたん吸引、経鼻経管等の介入が必要な介護度の高い重度者をほぼすべし受け入れることが可能になりました。看護師が介護保険下で行うことができる医療ニーズを網羅しており、在宅に移行したい方のニーズにも対応することができます。現在、入所者の多くが重度の方となっています。

—医療機関からの反応は。

国中 国では医療費の削減と

くモチベーションとしても将来の希望にも対応できます。

また、子育て中で夜勤ができないため現場復帰していない潜在看護婦を掘り起こすために、妊娠中・子育て中のスタッフに対して夜勤なしの日勤や時短など、ワークライフバランスに応じた働き方により柔軟に対応しています。1フロア毎にこういったスタッフを何割キープするというルールも設けていますし、そういった募集も行うなど、子育て中の方の確保もかなり積



▲4階の脳梗塞リハビリセンター。理学療法士によるマンツーマンのリハビリを行っている

り、近いところでは12月をめどに2フロア70人が埋まる見込みです。当施設の採算分岐点はこの70人なので、オープンから約5カ月でここに届きます。

極的に行っています。
一段階的にフロアごとにオープンしていくのですが、直近の予定は。
国中 オープンから1年半ですべて埋まる予定となっております。

施設と連携して地域の定期巡回担う

—定期巡回随時対応型訪問介護・看護事業所「グッドファイブ」について。

国中 定期巡回随時対応型訪問介護看護(以下、定期巡回)の現状からお話しします。その名の通り、1日に複数回の介護・看護が受けられ、緊急時にも24時間対応するというサービスです。元々は施設ありきのサービスではなく、定時的なサービスではない24時間対応のフルサポートなので1人でたくさん回るといのは物理的に難しい現状があります。全国のデータを参考にする、採算をとるには35〜40人の利用者を確保する必要があります。さらにはスタッフも確保しなければならぬという高いハードルがあります。行政により定期巡回を行う事業者が指定されますが、この事業を行っ

ている全国の事業者は採算をあわせることが課題となつています。
そこで、当社ではメデイケア癒やし京町台と連携することでこの厳しいハードルをクリアしたいと考えています。採算だけでいくと35〜40世帯なのですが、平均年収450万円を実現するために、定期巡回で100世帯を回るという目標を掲げています。ここでも施設の210床という規模が意味を持つてきます。

—事業スキームの構想が固まったのはいつ頃ですか。
国中 3年半前くらいです。福岡で3施設運営していた当社の取締役である松村の「介護職の年収を上げたい」という思いに、私の「医療従事者を配置すればいいのではないか」と

多数在籍する施設内にあるので体調が急変しても対応できるということも差別化につながっています。
では民間でも研究所登録するケースが出てきています。当社の研究所では帝京大学福岡キャンパス理学療法学科講師の丸山倫司氏を顧問に、研究開発に特化した看護師や理学療法士、作業療法士の研究者を雇用して、これまでの事業でもお世話になっている(株)マイスティアさんとも

文科省に研究所登録申請

—施設内に研究施設も作られるそうですが。
国中 「センスタイルエイジングサイエンスラボ」という名称で文部科学省に科研費の取れる研究所として登録申請をしているところですが、多くは大学の機関が科研費を取って研究を行うというイメージですが、近年

協業しながら研究開発を行います。この施設をフィールドとしてAI(人工知能)も活用しながら、利用者の動きに関することや、スタッフの働き方や満足度、心理状況をリアルタイムに把握できる、介護事業所のDX(デジタルトランスフォーメーション)に資するシステムを作りたいと考えています。研究所は登録後の来年4月に開設予定です。

いう考えを加えてアップデートした集大成のモデルと言えます。この事業を始めるときに「医療従事者が介護職になつてくれるのか」と疑問に思われた方も多かったです。ですが、私は理学療法士で医療従事者ですし、医療系の専門学校で教員もしていたので、看護師や理学療法士などのセラピストにも私たちの思いをきちんと説明すればやってくれるだろうと考えて

保険外サービスの脳梗塞リハ

—施設内にある脳梗塞リハビリセンターについて。
国中 医療従事者専門サイトを運営する上場企業エムスリー(株)の子会社が運営する脳梗塞リハビリセンターのフランチャイズ(FC)として運営しています。全国にある脳梗塞リハビリセンターはほとんどが直営のみです。元々は熊本市中央区大江4丁目のイオン熊本中央店にありましたが、10月にメデイケア癒やし京町台4階に移転しました。健康保険で脳卒中後のリハビリを受けることができる

期間が発症から最大180日となつており、脳梗塞リハビリセンターではそれ以降のリハビリを保険外のサービスで担うという形です。介護保険を使つてリハビリに通うのに抵抗のある比較的若い方が利用しやすい形態にしており、理学療法士などによるマンツーマンの施術を行っています。当センターに通っている方々のデータから、脳卒中の患者さんが6カ月以降でも1年後でも3年後でもトレーニングの効果があるということ立証し、海外の査読のある雑誌にも掲載されました。普通のフィ

来夏には福岡市2カ所で施設開設計画

—今後の施設開設の計画は。
国中 来年8月に福岡市早良区に210床、同市西区今宿に120床の施設をオープン予定です。熊本市でも来年度末まで

には新たな施設をオープンさせたいと考えており、現在各方面と協議中です。国のコンパクトシティ構想に沿った事業として、重度介護者の方をできるだけ集約して医療介護の効率化を図りたいと思います。
—今後の抱負を。
国中 私は元々予防介護をメインで取り組んでいました。元々専門学校の教員をしていたことから、科学的な裏付けのあるものや、医療従事者の先入観と世の中のニーズのギャップについて意識しながら常に事業を考えています。

これまでは健康に近い「予防」に関する事業を行っていましたが、誰もができていない健康から遠い方の「重度」に関する事業をできるのは我々専門家しかいないと自負しています。学説的には「P小なりO・05〜O・01



▲左から林田昂志朗取締役、国中社長、研究所の顧問を務める丸山倫司帝京大学福岡キャンパス理学療法学科講師

以下」という正規分布の端、つまり今まで誰もやっていないことを事業にしています。こういった事業に取り組む上で、「三方良し」ならぬ「五方良し」という言葉を使っています。「クライアント良し」「職員良し」「会社良し」「世間良し」「未来良し」という意味を込めた私の造語で、定期巡回の事業所名「グッドファイブ」もここからきています。今は意図を持って施設やサービスを選ばれる高齢者の方が多くなっています。あらゆる角度から高齢者施設のポジティブなイメージを発信していきたいと思っています。